

令和元(2019)年度栃木県立真岡北陵高等学校 学校評価

本年度の重点目標

- 学習指導、進路指導の充実（①指導方法の研究改善と研修の充実 ②資格取得の推進 ③組織的系統的な進路指導体制の確立）
- 規律ある生活習慣の育成と規範意識の醸成（①あいさつの励行②交通ルールの遵守と交通事故防止③情報モラル育成とネットトラブルの防止
- 特色ある教育活動の推進（①地域貢献、地域連携の一層の推進②部活動の活性化③地域への情報発信）

部・学年・科	重点目標	具体策	評価基準	評価
教務部	1	学習指導要領において、生徒が進路にあわせて適切に科目選択が行えるように、先を見越した教育課程の編成を行う。	A…令和3年度入学生教育課程が編成できた。 B…令和2年度入学生教育課程が編成できた。 C…令和2年度入学生教育課程が編成できなかった。	B
	3	授業公開を複数回実施し、より多くの保護者や中学校関係者の参加を促し、相互の連携を促進できるようにする。	授業公開を実施し、合計で A…100名以上の参加者があった。 B…50名以上の参加者があった。 C…50名未満の参加者だった。	A
	3	真岡市や各大学等との連携体制を構築し、円滑な連携事業を行う。	A…十分な連携ができた。 B…連携できた。 C…連携が不十分だった。	A
学習指導部	1	「高校生のための学びの基礎診断」の本校での導入を見据え、基礎力診断テスト（実力テスト）の結果を踏まえた基礎学力向上のための教育活動を計画し、実践する。	A…2つ以上実施 B…1つ実施 C…実施せず	A
	2	授業の質の向上を図るため、授業アンケートや公開授業の実施を徹底する。	A…すべての教科・教員が実施できた B…9割以上 C…それ以外	C
	3	定期試験の他、提出物、授業態度等、多面的な学習評価を行う。	A…多面的な評価を適切に行った B…概ね適切に行った C…一部の教科で偏りのある評価があった	B
生徒指導部	2	基本的生活習慣の確立を図り、集団の一員であることの自覚を促す。 (1)挨拶を励行する。 (2)高校生として適正な身だしなみを身につけさせる。 (3)時間厳守、規則遵守の意識を醸成する。	A…十分にできた B…できた C…できなかった	B
	2	豊かな人間性の育成に努め、生きる力を身につけさせる。 (1)相手の気持ちを考え、不快感を与える言動・行動がないよう意識させていく。 (2)個を認め合い、思いやりのある行動が取れる力を身につけさせる。	A…十分にできた B…できた C…できなかった	B
	2	地域社会や関係機関との連携を図り、交通安全教育の徹底に努める。 (1)交通ルール遵守やマナー向上を意識させる。 (2)危険を予測する力を身につけさせ、交通事故防止に努める。	A…十分にできた B…できた C…できなかった	B
	3	生徒理解や生徒把握に努め、生徒個々に合った適切な指導援助を行う。 (1)生徒へ積極的に声かけや面談を行い、生徒理解に努める。 (2)学年・学科・保健室等で密に情報交換を行い、生徒の理解・指導に努める。 (3)家庭の背景を十分に把握した上で、生徒に応じた指導援助を心がける。	A…十分にできた B…できた C…できなかった	A
	2	危機管理意識の高揚に努める。 (1)貴重品、自転車等の管理を徹底させる。 (2)不審者と遭遇した場合の適切な対応等を身につけさせる。	A…十分にできた B…できた C…できなかった	A
	3	特別支援教育における支援の方法を検討する。 (1)支援が必要な生徒一人ひとりの特性に応じた支援の手だてを検討する。 (2)校内研修会を開き特別支援に関する職員の共通理解を得る。 (3)支援が必要な生徒に対し、保護者と連絡を取りながら関係機関との連携を図り適切な援助を行う。	A…十分にできた B…できた C…できなかった	A
特別活動部	2	1、生徒会活動、部活動、家庭クラブ活動等特別活動の活性化に努める。 (1)自主的かつ規律ある活動を促し、生徒自ら行動できるように指導する。 (2)生徒一人ひとりが意欲的に活動に参加し、達成感を得られる行事の運営に努める。	A…十分にできた B…できた C…できなかった	A
	3	2、部活動の活性化と成果を目指した指導の充実に努める。 (1)学年や部顧問と連携して、部活動の加入率および継続率向上を図る。 (2)活動場所および部室の管理指導を行い、本校の活動方針に則した活動を行う。 (3)学校ホームページを活用し、活動の発信に努める。	A…十分にできた B…できた C…できなかった	B
進路指導部	1	各学科との連携を図り、学科の特性に合った資格取得の推進と、その学びを活用して進路実現を叶えられるような指導・支援をする。	A…十分にできた B…できた C…できなかった	A
	2	卒業後の環境に速やかに適応するために、元氣な挨拶と礼儀正しい言動がとれるよう、普段からきめ細かい指導を行う。	A…十分にできた B…できた C…できなかった	B
	3	地元を愛し、地域産業に貢献できる人材を育成できるよう、適切な情報提供と進路支援を行う。	A…十分にできた B…できた C…できなかった	A
健康指導部	3	保健委員会活動を年間（毎月）を通して充実させる。	A…ほぼ毎月活動できた B…隔月程度活動できた C…十分な活動ができなかった	A
	3	心の健康問題について、教育相談係や担任と連携をとり、情報を共有し組織的な対応を行う。	A…情報を共有し組織的に対応できた B…情報の共有または組織的対応のどちらかが不十分であった C…情報の共有及び組織的対応とも不十分であった	B
	3	職員及び生徒の防災意識の向上を図る。	A…防災訓練等を通じ、教職員・生徒の防災意識の向上が見られた B…防災訓練等を行ったが、教職員・生徒の防災意識は現状維持であった C…防災訓練等を行ったが、教職員・生徒の防災	A
	3	校内の老朽箇所及び危険箇所の発見と対応を図る。	A…老朽化・危険箇所を発見積極的に発見し対応することができた B…老朽化・危険箇所を発見し対応することができた C…老朽化・危険箇所を発見できなかった	B
	3	自販機周辺のゴミ（ペットボトル等）の管理の徹底を図る。	A…十分な管理をおこない清潔な状態を保ち整理できていた B…管理をおこない整理できていた C…管理が不十分であり不衛生な状態の時間があった	A

渉外部	3	P T A ・同窓会 ・諸団体からの要請に対応できる体制を確立し、連絡調整を余裕をもって行う。	A ……全ての体制を確立し、余裕をもって連絡調整できた。 B ……体制の確立はできたが、余裕を持った連絡調整が難しかった。	B
	3	各種行事への積極的な参加・協力を依頼する。	A ……各団体 8 割以上の役員の方が出席した。 B ……各団体 6 割程度になった。 C ……各団体 6 割未満だった。	B
1 学年	2	無遅刻・無欠席・無早退の意識を身につけさせる。	学年の皆勤の生徒の割合 A …… 8 0 % 以上 B …… 6 0 % 以上 C …… 4 0 % 以上 D …… 4 0 % 未満	D
	2	頭髪、服装を守ることや礼儀マナーの意識を身につけさせる。	意識が高まった生徒の割合 A …… 8 0 % 以上 B …… 6 0 % 以上 C …… 4 0 % 以上 D …… 4 0 % 未満	A
	1	家庭学習の習慣や基礎的な学力を身につけさせる。	家庭学習の習慣や基礎的な学力が身についたと回答した生徒の割合 A …… 8 0 % 以上 B …… 6 0 % 以上 C …… 4 0 % 以上 D …… 4 0 % 未満	A
2 学年	1	基礎学力の向上を目的とした。朝の学習を月 2 回程度実施し、さらにはマナトレを用いた学年統一テスト等を行う。	基礎学力診断テスト (G T Z) が A …… D 3 が 0 人 B …… D 3 が減少した C …… それ以外	B
	1	学年集会、インターンシップ、面接旬間を利用し、生徒の進路意識の高揚を図る。	アンケートを実施し、生徒の進路意識が A …… 大きく上昇した B …… 上昇した C …… 変化なし	A
	1	朝の学習での作文練習や小論文模試対策、インターンシップ等を活用し、生徒のコミュニケーション能力の向上を図る。	アンケートを実施し、生徒の進路意識が A …… 大きく上昇した B …… 上昇した C …… 変化なし	A
3 学年	1	9 月応募就職試験で希望者の内定がとれるように、事前の面接指導等指導する	内定率が A …… 9 0 % 以上 B …… 8 0 % 以上 C …… 7 0 % 未満	A
	1	個別面談を積極的に行い、希望進路に沿った指導を行う	アンケートを実施し、 A …… 9 0 % 以上満足 B …… 8 0 % 以上満足 C …… 7 0 % 未満	A
	1	進路決定後の学校生活をより充実させるため、租税等社会生活に必要と思われる講話等実施する	A …… 講話を 3 つ以上実施する B …… 講話を 2 つ実施する C …… 講話を 1 つ実施する	B
生物生産科	1	学科職員全員で進路指導にあたり、関連産業への進路実現を図る。	関連産業への就職・進学者数が A …… 大幅に増えた。 B …… 例年並みであった。	A
	2	安全な農場実習を行うために、農機具や農業機械の取り扱いを通して、安全意識の向上を図る。	A …… 機械等の使用事故がなく、生徒の安全意識が向上した。 B …… 機械等の使用事故がなく、安全な農場実習が実施できた。 C …… 事故を防ぐことができなかった。	B
	3	農業交流を中心とした地域連携事業を推進する。	A …… 例年より多く実施した。 B …… 例年並みに実施した。 C …… 実施しなかった。	B
農業機械科	1	各自の適性にあった進路選択ができるよう、大学や企業見学、地域ボランティア活動への参加を実施し、進路実現に向けた意識向上を図る。	アンケート実施にて評価を行う。 A …… 生徒の 80 % 以上が明確な進路意識を高めることができた。 B …… 生徒の 70 % 以上が進路意識の向上がみられた。 C …… 進路意識の向上がみられた生徒が 70 % 未満	B
	1	各種資格の取得により、進路実現の可能性を高め、進路選択の多様性を図る。	A …… 各学年 3 つ以上の資格を 80 % 以上の生徒が取得できた。 B …… 各学年 3 つ以上の資格を 70 % 以上の生徒が取得できた。 C …… 資格を各学年 3 つ以上取得できたのが 70 % 未満	B
	3	研究活動の一環として、地域との連携を図り、地域の方々と交流することで、コミュニケーション能力や地域づくりのリーダーとしての意識を高める。	A …… 地域連携で地域の方々と交流により、生徒自身の意識が向上し、研究活動に積極的に取り組めた。 B …… 地域連携を行ったことにより、研究活動に積極的に取り組むことができた。 C …… 地域連携ができた。	C
食品科学科	1	進路意識の向上、選択肢の幅を広げるために、各学年において上級学校の見学・体験、企業見学などを実施する。それにより、進路実現に向けた意識の向上をおこなう。	アンケートを実施し、次のように評価する。 A …… 9 0 % 以上が進路意識が高まり、明確な進路を定められた。 B …… 70 % 以上が進路意識の向上がみられた。 C …… 進路意識の向上がみられた生徒が 70 % 未満	B
	2	将来の進路に関連づけて資格取得の指導を強化する。	A …… 例年に比べて多くの生徒が資格取得した。 B …… 例年通りの結果だった。 C …… 例年に比べ、取得率が低下した。	A
	3	地域と連携した活動を継続的に行う他、研究活動の強化を目指す。	A …… 例年以上に学科の生徒が地域交流に参加する他、食品化学や微生物学を基盤とした研究活動にも積極的に取り組めた。 B …… 例年通り地域交流活動に取り組めた。 C …… 例年に比べ地域と連携した活動を行えなかった。	B
総合ビジネス科	1	実習と座学の反復学習による技術知識の定着や課外指導により、資格取得挑戦経験を通して、目標達成への問題解決能力の育成を図る。	自己の取り組み実施状態の評価をアンケートや課題・資格取得実績で実施し A …… 80 % 以上 B …… 50 % 以上 C …… 30 % 未満	B
	1・2	行事や事業の活用により自己の進路を考察し、インターンシップなど組織的取り組みを通し、生徒に社会適応に向けた自己研鑽の必要性を理解と取り組みをさせる。	A …… 例年に比べ学科生徒の積極的取組ができた。 B …… 例年並みの生徒の取り組み状況である。 C …… 例年の生徒に比べ消極的な取り組みである。	A
	3	学習成果発表の場である生徒商業研究発表大会や電卓競技大会・地域連携事業に参加することで、より積極的な取り組みやコミュニケーション能力の育成を図る。	A …… 生徒の積極的取り組みで成果がみられた。 B …… 取り組みにより生徒の能力向上が見られた。 C …… 例年より消極的な取り組みとなった。	A
教養(介護)福祉科	1	介護福祉士国家試験の高い合格率を目指す。	A …… 90 % 以上 B …… 全国平均以上 C …… 全国平均未満	B
	2	専門的学習や介護実習を通して、介護福祉士としての資質を育成する。	A …… 介護福祉士について、十分に探求することができた。 B …… 介護福祉士について、知ることができた。 C …… 介護福祉士について、十分理解することができなかった。	A
	3	福祉に関係する関係諸機関との連携を図り、専門性の高い授業を展開する。	A …… 例年よりも内容が深い授業を実施した。 B …… 例年並みに実施した。 C …… 実施しなかった。	A